

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	鳥栖市立基里小学校
1 前年度 評価結果の概要	・教科「日本語」を中心として、校内研究を充実させ、児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善を工夫することができた。次年度は、研究を継続すると共に学びのスタイルを他教科へも広げたい。 ・「教育相談週間」「なかよしアンケート」で児童の困り感を捉え、「なかよし宣言」「人権標語」など思いやりの心を育む取組を行うことで心の教育の充実を図ることができた。今後もみんなが気持ちよく過ごすことのできる学校作りに努める。 ・研究発表会を開催し、小中一貫教育の一層の充実を図ることができた。授業の相互参観や研究会参加など、小中学校の教職員が共に学ぶ場を設けると共に、「5・7交流」「6・8交流」「よろしく先輩」「文化発表会参観」など、児童生徒の交流活動も継続したい。
2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 ～ みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう ～

3 本年度の重点目標	①児童の主体的な学びの実現と学力の向上 ②心の教育の充実による豊かな心の育成 ③小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が問いを立て、解決することを通して、主体的・対話的に学ぶことを目指した授業力改善	○児童が問いを立て、解決する場を設定するような授業改善に取り組んでいる教員90%以上 ○自分で問いを立て、問いの解決を目指して学習に取り組むことができる児童70%以上	・教科「日本語」を中心に、他教科においても問いを軸とした授業づくりの在り方を研究し、児童が主体的に学び、考える場を設定する。 ・発達段階に応じて、問いを意識させた学習づくりを行う。		・		・		・
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90%以上 ○アンケートにおいて、「困ったことや悩みがあったときに話せる人がある」と答えた児童80%以上	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・何でも話せる人間関係づくりにも努め、各学級でなかよし宣言を考えたり人権標語を作成したりすることで、人権について考える機会をもち、思いやりの心につなげる。		・		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90%以上 ●いじめの防止、事案への対応について、組織的な対応ができていると答える教師85%以上	・学校生活での児童の様子や生活アンケートの回答から、児童理解に努め、児童の困り感や抱える問題等に応じて即時対応する。 ・いじめの認知・覚知した場合、迅速かつ組織的に対応し、早急にいじめ対策委員会を開いて対応する。		・		・		・
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組んだり、一人一人のよさが認められりするような教育活動を仕組む。 ・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにキャリアパスボードを活用する。家庭に持ち帰り、保護者からコメントを書いてもらうなど、保護者が知り、助ます機会を設ける。 ・目標をもって中学校に進学するための交流や体験活動の場を設定する。		・		・		・
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●休み時間に屋外で運動する日が、1週間で3日以上の子児童80%以上	・体育委員会を中心に、外遊びを推奨するイベントを企画・実施してみんなで運動することの楽しさを味わうことができる場を設定する。 ・スポーツチャレンジの啓発、実施を行い児童の意欲喚起を図る。		・		・		・
	○望ましい生活習慣の形成	○1日の睡眠時間が1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80%以上	・保健便りや校内の掲示物を通じて、睡眠の大切さを児童に呼びかける。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議や行事の精選を行うとともに、職員共有の連絡板を効果的に活用するなどICT利活用による校務の効率化を図る。 ・通常の施錠時刻や退勤時刻を意識した働き方、積極的な年休等の取得を推進する。・		・		・		・
●特別支援教育の充実	○学習環境の整備	○インクルーシブ教育を意識した指導を行う教師90%以上	・UDの視点を生かした教室環境づくりを行い、集会を通して児童相互理解を深める。		・		・		・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎小中一貫教育の充実	◎教科「日本語」の実践充実	◎保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ◎保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上発信した学級率80%以上	・全教職員が研修を積み、年1回以上、教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年通信や学級通信で、教科「日本語」に関わる情報を学期に1回以上載せる。		・		・		・
○地域と共にある学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○アンケートにおいて「コミュニティ・スクールとして推進していることを知っている」と回答した保護者80%以上、「学校生活を地域の方に支えてもらっている」と回答した児童80%以上	・地域と連携して、各学年年に1回以上、地域交流行事を設定していく。		・		・		・

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	--